挨　　拶

東レ科学振興会　会　長　日　覺　昭　廣

本日はご多忙のところ，皆様にご出席をいただき誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染の影響で一昨年，昨年と中止を余儀なくされましたが，本日ここに東レ科学振興会の設立60周年記念式典を開催できますこと，心から感謝申し上げます。

私ども東レ科学振興会は1960年6月に設立されました。財団設立前の1950年代は戦後の復興から高度成長に入った時期で好景気が続いていました。しかし，産業を支える日本の科学技術の水準は，欧米にまだまだ遅れている実態にありました。東レにおいてもナイロンとポリエステル事業で多額の利益を上げ事業基盤を拡大していましたが，いずれも欧米からの技術導入に依存した事業でした。

当時東レ会長であった田代茂樹氏らは，日本の科学技術の実情に鑑み，その振興が何より必要であると痛感し，社是であります「社会に奉仕する」を具現化するため，理工学関係の基礎研究に資金援助と顕彰を目的とする財団を設立するに至りました。1960年当時，国の科学研究補助金の予算額が20億円に満たない時代に，東レ科学振興会は科学技術研究助成に1億円，科学技術賞賞金に1千万円の規模でスタートしました。

その後，10周年を記念して，1969年に中学校高等学校の理科の先生に対する顕彰を目的とした理科教育賞を導入し，30周年を記念して1989年からインドネシア，マレーシア，タイの若手研究者への研究助成を開始し，現在の事業の骨格ができました。

60周年記念事業の一つとして，日経サイエンス社様のご協力を得て，2020年4月から6回にわたり，財団の沿革や研究助成，科学技術賞，理科教育賞について掲載してまいりました。本日その6回分をまとめた小冊子をお配りしていますので，ご高覧いただければありがたく存じます。

この60年間，一貫して取り組んできました私ども東レ科学振興会の精神，受け継いできましたDNAについて申し上げたいと思います。

その一つが，科学技術研究助成と科学技術賞への取り組みであります。先ほど申し上げた田代茂樹氏は当時の選考委員長に対し，研究助成の分野に関して，「社業である繊維の研究は自分でするから他の分野に重点を置いてくれ」，と注文しました。また，科学技術研究助成と科学技術賞の推薦をお願いしていた学協会には，当財団は科学技術の振興に寄与せんとする公益事業であること，基金醵出者である東レ株式会社とは一切利害関係がないことを説明し推薦を依頼しました。この考え方，精神は，いまでも引き継いでいます。先ほどの小冊子の4ページ下の円グラフをご覧いただいても研究分野が多岐にわたっていることがお分かりいただけると思います。

もう一つが，中高生理科教育への取り組みであります。1969年に財団理事である茅誠司先生から，「理科教育振興のための事業として，生徒や学校に対するものは存在しているが，教師の研究業績に対するものは皆無に等しい。教師を対象とする表彰制度を新設し，理科教育の発展に役立てたい」との提案がなされ，設立10周年記念事業としてスタートしました。また，2020年度から設立60周年を記念して，理科教育における新しい発想と工夫考案にもとづいた企画・開

発を対象として，理科教育賞・企画賞を新設導入しました。

国際教育到達度評価学会（IEA）が2019年に実施した「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）」によりますと，我が国の算数・数学，理科の結果は，小学校・中学校ともに国際的に見ても引き続き高い水準を維持していること，また，小学校・中学校いずれも，算数・数学，理科の「勉強は楽しい」と答えた児童生徒の割合は増加していること，などが分かりました。

理科教育賞を推進してきました当財団にとっても喜ばしいことです。引き続き，理科教育振興と理系人材の育成のために取り組んでまいりたいと考えております。

もうすでに役割を終え現在は終了していますが，当財団では，これまで様々な事業を行ってきました。科学講演会を2013年度まで63回開催し，また，人類・環境問題研究のための委員会活動を1972年から1979年まで行いました。研究集会開催・学術調査・海外渡航・論文の出版・事業協賛などへ合計540件もの諸援助も実施してまいりました。

この60年間は，科学と産業技術の成果が身近なものとして次々に社会や家庭に拡がっていく時代でした。産業構造だけでなくビジネスシーンやライフスタイルが大きく変化するとともに，進んだ技術によって，便利で豊かな暮らしがつくられる一方，地球環境などの新たな課題も生まれてきました。

新型コロナウイルスだけでなく，世界には人類の将来にとって解決すべき問題が山積しています。それらを解決するために科学・技術はどのように貢献できるでしょうか。これからも人々を豊かに幸せにすることができるでしょうか。そしてどんな未来がつくれるでしょうか。

この限られた地球の中で，人類が平和で文化的な生活をこれからも続けていくためにも，科学技術のさらなる進歩と進化が求められています。

「知の世紀」と呼ばれる21世紀においても，日本が「科学技術創造立国」として競争力を維持していくために，私ども財団は，引き続き日本の科学技術振興に貢献していきます。

これまで，財団設立以来長年にわたり東レ株式会社および東レグループから多額の寄付金を出捐いただいてきました。この間，東レの業績は必ずしも好調な時ばかりではなく構造不況等で従業員にも大変厳しい取り組みをしていた時期もありました。しかし，東レは一貫してこの財団の活動を支援してくれました。その結果，60年間にわたり途切れることなく研究助成や科学技術賞，理科教育賞を続けて来ることができましたことに，改めて心から感謝を申し上げます。

この間，当財団の活動をお支えいただきました理事，監事，評議員の皆様をはじめ，歴代選考委員長ならびに選考委員の皆様，そして歴代審査委員長ならびに審査委員の皆さまのご努力に対し，深く敬意と感謝を表するものであります。今後とも皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げまして，簡単ではございますが私のご挨拶とさせていただきます。ご清聴誠にありがとうございました。